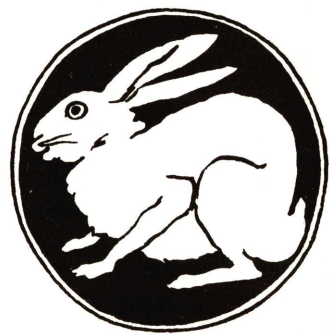


婦人子ども



大正四年一月五日

第十五卷
第一號



フ
レ
ー
ベ
ル
會

第十五卷第一號目次

幼稚園の副次的任務

幼兒教育と暗示

京阪神の幼稚園の視察

『ボール・ドンビー』

應接十分間

京阪神聯合保育會提出遊戲

保育入門

フレーベル追懷錄

上野陽一

土川五郎

岡田みつ

みどり

倉橋惣三

本誌定價

一冊 郵税共金拾壹錢 六冊前金郵税共六拾錢
拾二冊同金壹圓貳拾錢 郵券代用一割増

購讀申込

本誌購讀御希望の方は右定價表により振替貯金にて御拂ひ込み下さい。直に送本致します。(振替口座東京一七二六六番)

本會宛御用務

本會宛諸般の御用務は左の如く願ひます

(庶務上保姆紹介に關する件をも含む)の御手紙は
東京市小石川區久堅町七十四番地フレーベル會事務所宛

會計事務は東京女子高等師範學校附屬幼稚園内、
雨森劍宛

本誌編輯の御用務(寄稿、廣告等)は東京府下代々
木山谷一二四倉橋惣三宛

大正四年一月一日印刷
大正四年一月五日發行

編輯兼發行者 倉橋惣三
東京府豐多摩郡代々幡村大字代々木山谷一二四

印刷者 平井登
東京市本所區番場町四番地

印刷所 凸版印刷株式會社本所分工場
東京市小石川區久堅町七十四番地

發行所 フレーベル會

友之供子

谷ケ司雜京東社友之人婦十も税分半十一定
番〇〇六一替振社友之人婦十も税分半十一定
錢六と郵年錢冊價

顧問 高島平三郎先生

モドコ

此の月刊「繪ばなし」は幼い女の子にも男の子にも誠に良いお友達である。さし繪の綺麗なる事と片假名にて記事の教育的なるとは讀んで面白く大に爲になる家庭向の雑誌なり
◎子供を愛する家庭にはなくてはならぬ讀物なり

毎月一回 定價一冊金十錢郵税 最寄書店になくば
五厘六冊郵税共金五 本社へ御申込あれ
一日發行 十八錢十二冊郵税 御注文は振替貯金
共金一圓十錢(前金) なければ尤も便利也

●郵便切手代用一割増●

東京小石川林町五七
振替東京二七九六三

コ
ド
モ
社

幼稚園の副次的任務

— 家庭教育に對する貢獻 —

幼稚園の任務が其の園兒保育にあることは言を俟たない。幼稚園は之れが爲に其の力を盡し、専心餘念なかるべき筈である。

しかも、茲に、此の主要任務に必然に隨伴して然るべき、また、此の主要任務の爲に最も有利なる副次的任務がある。一般家庭教育の改善發達のために其の力の一面を用ゆることである。

家庭教育の學術的組織的研究の怠られて居ること、蓋し太だ久しいものである。今日學校教育の研究の斯くの如く活潑に進歩せる世にあつて、家庭教育の研究の缺けて居ることは、更めて考ふれば、寧ろ奇怪とすべき程のことである。勿論家庭教育は或る意味に於ては一種の自然的教育であつて、其の教育者たる親と、被教育者たる子との關

係は、必ずしも教育學的知識がさきになつて而して後行はるゝものではない。しかし、家庭教育が當然要すべき教育學的知識は少くないのである。

殊に現代の家庭教育が現代の文化を十分に利用して其の効果を高めんとするに當つては、誠に多くの原則的及び應用的教育知識を必要とするのである。而して、此の家庭教育に必須なる教育知識の研究に最も多くの便宜を有するものは、すなはち幼稚園である。蓋し小學校以上の學校教育にあつては、其の直接必要なる教育研究は、おのづから學校教育の特殊なる範圍に限られて、家庭教育の爲に資する處、甚だ遠きか、少くも間接的たらざるを得ない。勿論、學校教育に於ける訓練上の注意も、教授上の或る法則の如きも、家庭教育により

て多大の參考となるものであるけれども、幼稚園教育のその如く、全部が、直接的に、殆んどそのままに家庭教育の資となる如くではない。

殊に幼稚園教育そのもの、方よりいふ時は、家庭教育をさきにせずして、其の教育の完きを期することは、到底不可能と言つてよいのである。蓋し、學校教育も幼稚園教育も、之れを最も概念的に起原的に考へれば、家庭教育の補充的機關なるに於て差なく、すべての教育の基礎的様式は家庭教育に發すと言つてもよいのであるが、事實上今日の學校教育は、家庭教育とは多少特殊の範圍に、多少獨立の性質を帯びる程に、それ自身の要求と發達とを遂げて居るのである。之れに反して、幼稚園は、其の本來の性質上一つに其の範を家庭教育にとり、其の特殊化を避くべき當然の位置にある。勿論、幼稚園教育は幼稚園教育としての特別なる（家庭教育の研究以外）研究を要することも尠くない。しかも、其の全體に於て、殊に其の基礎

的主調に於て、家庭教育の精神及方法の上に、其の研究を出發せしむべき筈のものなのである。即ち、學校教育學を知らずとも幼稚園教育は出来るかも知れない。しかし、家庭教育學を知らずして幼稚園教育は出来ないと言ひ得るのである。

尙ほ又、家庭教育と協力提携の必要に於ても、學校教育にとりて其の必要あるよりも以上に、一層細密なる、一層離るべからざる必要が幼稚園教育に於て要求せらるゝのである。換言すれば、學校教育は、家庭教育に無關係に、尙ほ多少の何物かを兒童に與へ得ることもある。しかし、幼稚園教育は、家庭教育の協力なくして、殆ど何の教育をも期し得ないのである。故に、家庭教育の改善發達を所希する點に於て、一般的にも、個々の兒童の教育の爲にも、幼稚園の熱心と要求とは、實に切實を極むるのである。思ふに今日の幼稚園が其の當然の効果を舉げ得ないのは、其の責め幼稚園の方にもあるは勿論であるが、家庭教育が其の當然

の協力を缺いて居る爲であることも尠くない。

此の意味に於て、家庭教育の改善發達は幼稚園自身にとつても最大の急務といふべきものである。

斯く考へて來れば、家庭教育の改善進步の爲に、其の力の一面を分つて、其の副次的任務とするこゝとは、其の研究の便宜よりするも、理論上の必要よりするも、實際上の必要よりするも、幼稚園にとつて自然にして且有利なることである。

さて、此の副次的任務の實現の爲に執るべき手段は一つにして止まらない。

一、先づ我國中流家庭（或は其の幼稚園に通園する幼兒等の平均家庭）が、其の年齢の幼兒の爲に與ふべき家庭生活の標準を研究して、之れを幼兒保育の大體の出發點とすると共に、甚しく過不及ある家庭の爲に適當なる方法を以て忠告し、又社會的に示教することも極めて必要であらう。斯くいへば幼稚園が非常に大きいことをする様に思ふ人もあるかも知れないが、此の位の教育的見識は

當然有して然るべきものと信するのである。

二、幼兒の衣服、辨當等のことについて、餘り幼稚園から家庭に注文する如きことは或る弊を伴ひ易いことかも知れない。しかし、是等の問題について、家庭の相談に應じて十分教育的指導をなし得るだけの用意研究は出來て居なければならぬ。尙一步進んでは適當の時期に於て、各種の模範品を供覽して、其の方面の注意を促し、相談を誘ふことも必要である。

三、殊に玩具の撰擇等に就ては、大に家庭に貢獻する處あつて然るべきである。幼稚園は積木一方ときまつて居た昔日なら兎に角、今日の豊富なる保育材料は、家庭教育に適用すべきものが少なくないのみならず、大に共通の研究題目を有する次第である。

四、かくて、幼稚園が家庭教育の研究の結果を適切懇切なる方法を以て普及すべき手段をとることも必要である。之が爲には随時に講演會や展覽

會を催すこともよいのであらうが、能ふべくんば常時的に、徐々として而かも不斷に、此方面に力を盡すことが大切である。而して、幼稚園の應接

幼兒教育と暗示

文學士 上野 陽 一

催眠術を施された人に向つて、「今大雪が降つて居て、貴方は凍えかゝつて居ます」といへば、如何にも寒さうな風をしてブル／＼と慄へ出します。

又「貴君の手は上下に動いて居ます」といへば、その通りに動きはじめます。かくの如く施術者が催眠者に向ひ、或影響を及ぼすために與へる所の通告を暗示と名づけます。

併しこの暗示は必ずしも催眠だけに限つたものではありません。覺醒時に於てもやはりこれに類した暗示の現象が見られます。これを前の催眠暗示に對して覺醒暗示と申しますが、今この覺醒

室は、善く選擇せられ善く配列せられた表類や模範品類準備をして、常に此の目的の爲に世の親達を迎ふべきである。

暗示を幼兒の教育特にその訓練や智育の上に應用することについて御話しませう。

一

暗示の現象を教育上に應用することは、決して耳新しいこともなく、又珍らしい事柄でもありません。教育者又は父兄と子供とが相接觸する以上、そこに何等かの暗示關係が行はれて、或影響を與へるといふことは、有り得べきことであります。

併したゞ無意識の中に、知らず／＼さういふ關係が行はれるといふだけでは、末だ以て思慮ある教育と稱することは出来ません。將來は教育者が

よくこの暗示の原理を心理上から研究し、意識的に一定の案を定め、教育の目的を達する一つの手段としてこれを利用するやうにならなければならぬと思ひます。この點からいふと、教育者は催眠術の原理、特に暗示の現象効果について深く研究する所がなければなりません。勿論催眠術そのものは、常用の教育手段ではありませんが、それによつて教へらるゝ暗示の原理に至つては、その應用が廣くして且大であります。

フランスにギョーといふ人が居ました。この人は「教育と遺傳」といふ本を書いて、その中にこの暗示と教育との關係を詳しく述べて居ますが、その言に「子供がこの世に現れた瞬間に於ては、催眠に類した状態に居る。」といつて居ます。果して然りとすれば、子供は特に暗示に感じ易いものではないはなければなりません。併しこれは子供が催眠術にかゝり易いといふのではありません。幼児は却つて催眠せしめ難いもので、長ずるに従つて

次第に催眠し易くなるものであります。何故かといふと、催眠するには注意を集中することが必要であるが、注意を集中するには、或程度まで精神の發達することが必要であるからです。そこで幼児には催眠を施すことが不可能であると同時に、却つて催眠は不必要だといふことが出來ます。何故といふに、幼児には獨立心と批判心が缺けて居るから、別に催眠させずとも、暗示に感じ易いものであるからであります。これを暗示感性が強いと申しますが、これは子供の供述を研究して見ると、明らかに分ります。子供に向つて種々の暗示的質問を發して見ますと、それに影響されて、いろ／＼の答をしますが、それを調べて見ると、自分の想像に浮かんだことをば、恰も實際見たり聞いたりしたことのやうに思ひなして居ることが少くありません。それを基礎として裁判などをすれば、飛んだ間違ひに陥ることになります。かくの如く、子供は暗示に對して、極めて感じ易い

許りでなく、その暗示は中々長く迄ついくものであります。殊にそれが本能と結びつくと、甚だ大なる勢力になつて來ます。例へば暗い部屋に於て「おばけ」が居ることなどを暗示しますと、暗黒に對しては恐怖本能が發動するやうになり、一生に亘つてそれが止まらくなります。大人になれば教育の力によつて、「おばけ」なるものを信じなくなります、それは理窟上さう信じて居るだけで、實際暗い處を通るときなどは、幼時暗示された「おばけ」の形が眼に浮かんで來て、恐怖を感じるものです。これに打ち克つには、偉大なる意志の働きを要する所を見ると、幼時に於ける暗示の效力が如何に永續するものであるか知られます。

二

教育の目的を達するには、各個人の性質を少しづつ變へて、それに適合するやうにして行くことが必要であるが、それには其本人自らが現在よりは變化し得ることを確信するのが第一歩であります。

す。修養々々といひますが、修養の第一條件は、自分が理想に向つて一步づゝでも近づき得ることを確信するにあります。その確信が無くては、百の大家が百の工夫を説いても、それは何の役にも立ちますまい。幼児教育の場合でもさうです、子供をして父兄なり教育者なりの示す理想に近づき得るといふこと、換言すれば自分は出来る善くなるといふことを信じさせなければ、教育は出来ません。

私は昨日町を通行中、驚くべき事を目撃しました。それは一軒の魚屋の親父の言動です、親父は店を掃除して居ましたが、次の暗い部屋には二三人の子供が遊んで居ました。その時子供は何か取つたとか、やらないとかいつていひ争つて居ましたが、親父はそれを聞いて眼を瞋らして、「この馬鹿野郎又喧嘩をしやがる、引つばたいてやるぞ」といつてもつて居たはうきを振り上げ、子供に向つて宣戦を布告しました。何と驚くべき教育では

ありませんか。子供の喧嘩を非常な悪事のやうに心得て、それを矯正することに骨を折り、自ら子供と喧嘩する矛盾を敢へてして、而もその滑稽なる矛盾を知らずに居るこの親父は可憐な奴ではありませうが、日々かういふ教育を受けて育つて行く子供は、大きくなつてから、どんな人間になるかと思ふと寒心に堪へません。

この事實について考ふべきことが二つあります。一つは子供の些細なる喧嘩に對して、さう一圖に壓迫と制裁とを加へる必要があるかといふことです。私は或程度まで子供の喧嘩は放任しておいてもよい、又放任しておいて自然にその結果を味はせる必要の存することもある、又喧嘩そのものが子供の社會意識の發達を助けることもあるといふ風に考へて居ます。併しこの方は目下の問題と直接關係がありませんから、こゝには述べません。今一つはこの魚屋の親父の如く、子供の非を眞向から咎めて、事毎に「馬鹿野郎」と「しょうのねえ

奴」とを連發して、子供自身に自分は「しょうのねえ馬鹿野郎」だといふ考をもたせるに至ることの教育上極めて危険なやり方であるといふことでもあります。私はこのやり方を改めて、被教育者をして向上の確信を得させて、歩一步これを理想の方に近づかせて行くやり方にしたいと思ふのであります。向上の確信といふと、大袈裟のやうであるがどんな幼兒に對しても、この式の教育は極めて必要で、而も可能であると思ひます。

例へば子供が轉んだとする、この事件に對して長上の執るべき態度に二つあります。一つは「さぞ痛かつたであらう、おう／＼こんなに赤くなつて、泣くんぢやない」といふ風に同情的の態度をとつていたはることです。併しこのやり方でいくと、子供は必ず泣くにきまつて居ます。少し位痛くても痛かない強い子を作るには、そのやり方では駄目であります。第二は轉んだ子供が泣き出すに先つて機先を制し、「オヤ、坊やは強い、轉んでも

泣かない、エライ」と賞めてしまふのです。賞められてから泣く譯には行かないから我慢をする。

一回成功すれば、子供の方に「向上の可能を確信する心」が出来ます。その確信が次第に基礎を固めて来れば、轉んでもだまつて放任しておく、遂には獨りで起きて来て、轉んでも泣かなかつたことを報告しに来るやうになります。たゞ僅かに「泣くんぢやない」と「泣かない」との違ひでありますが、第一のやり方でいくと、幾つになつても人が起しに来るまで、ワイ／＼いつて泣きながらまつて居る子になります、暗示の與へ方について、如何に合理的の注意が必要であるかは、この簡單なる例によつても知ることが出来ませう。

ですから子供に對しては、「善い事をなし得る、悪い事をなし得ぬ」といふ確信を與へるのが第一の必要條件であります。これを催眠術の場合に比べて見ると、催眠者に向つて「貴方の手は動かぬ」といへば、實際動けなくなり、又吃音者に向つて

「貴方はどもらずに話し得る」といへば、その通りになる。幼兒の教育に於ても、これと同様のことが行はれるのであつて、それ／＼の年齢及び境遇に適した事柄について、少しづつ巧みな暗示を與へて行けば歩一步教育者の理想とする所に引き上げて行くことが出来るのであります。

ギョーは子供の行爲なり動機なりに對して、善意の解釋を加へることは、道德教育の主要素であるといつて居ます。性善惡論は昔から議論の岐れる所ありますが、教育者の態度としては、子供の性善を假定し、それを發させるやうに努めるのが至當の途かと考へます。魚屋の如く、何でも子供の所爲を惡しざまに解して、眞向からこれを抑壓しようとするのは誤つてゐます。子供の執拗でもさうです、正面からその執拗を罵つてこれを壓迫しようとする、却つてその傾向を増させるといふ結果に終つてしまひます。それよりも子供の行爲を善意に解して、その根元に善良なる意志を認め

てやつたならば、その悪い傾向も芽生えの中につ
み去ることが出来るであらうと思ひます。この事

は再犯者に關する統計が、反面から明らかに證據
だてゝ居ります（つゞく）

京阪神の幼稚園視察

（東京市保育研究會に於ける講演）

東京市麹町小學校長

土 川 五 郎

私が此度關西に旅行いたしましたのは、京都に
開催せらるゝ保育大會に出席致したいのと、京阪
地方の保育の實況を視察いたしたいのと、此二つ
の目的の爲めでした。見聞いたしました事を日を
追ふて順にお話する事に致します。十月六日に新
橋を立つて七日の朝京都に著いて、保育大會の幹
事を訪問しました。八日に保育會に出席致しまし
た。會場に出て見ると、四百五十人ほどの保姆が
堂々と列席して居られました。男子は其兩側に小
さくなつて控へて居りました。保育會はかくてこ
そと思ひました。

聽て井上法學博士が開會の辭を述べられまし
た。博士は京都市長であつて、此會の會長をして
居らるゝのです。私は未だ會て是程適切な開會の
辭を聞いた事がありません。桃太郎は氣はやさし
くて力もちであつた。氣のやさしいとは心持の順
良を示し、力もちとは體力意力が共に強いを現
はして居る。桃太郎は人間の最高理想をあらはし
たものである。此桃太郎の出來上るには胎育も必
要教育も大切で、而して先づ最初健全なる父母
を得なければ、單獨に桃太郎は生れて來る者でな
い、健全なる結婚を得て次で保育教育の必要が起

るのである、保育は實に人間の三大切の中堅である。此大切な衝に當つて居らるゝ諸君はどうか十分に其責務を遂行して貰ひたいと云ふとでした。

次いで神戸市保育會から「從來本會より建議せし事項に對し、其筋へ實行の請願をなすの件」といふ問題が提出せられました。次に、「時局に對し保育上如何なる御考案あるや承りたし」といふ大阪市保育會からの提議に對し、神戸、京都、大阪各代表者が立つて、其意見を述べられました、遊戲に時局を利用して勇氣を養成するとか、陛下の御仁慈を會得せしめるとか、出來得るだけ機會を利用して、尙武の氣象を涵養するとか種々の提案がありました。各代表者が意見を述べられる態度がなか／＼うまいものでした。男まさりの肩で風を切るやうなのでもなく、はにかみ過ぎて語尾の消える憂もなく、すら／＼と明瞭に立派にやつてのけられる話しぶりには大に感服した次第であります。次に小西博士のフレーベルの昔に歸れといふ

やうな意味のお話がありました。それから遊戲の交換がありました。京都、大阪、神戸各市の保姆が出て、二回づゝ各自の考案になる遊戲をして見せられました。此の遊戲を聴かしいといふけしきもなく、一生懸命にやつて見せられる保姆の眞率な態度にも感心致しました。

次に「幼稚園に於ける優良なる感情の養成法承りたし」といふ京都市保育會提出の問題に對し、食事の時、テーブルに清潔なクロスをかけて、花瓶に花を挿して、樂んで食卓につかしむるがよいとか、音楽がよいといふやうな説があつたやうでした。次いで「園兒の感覺練習につきて適切な方法を承りたし」(京都市保育會提出)「各園に於ける園外保育の實際を承りたし」(大阪市保育會提出)といふ問題は時間がない爲めに三市役員會に委託となりました。終りに十分演説がありました。大阪市の保姆が自信について神戸の代表者が意志の訓練について話されました。秩序整然としたも

のでした。京都の人が、歐米の林間保育を説いて遊園のことに就て話されました。これで大會は終りました。大膽に之を批評すると大會は形式に走つて居るやうです。各市から發表された意見に對して批評なり決定なりこれはかうでなくてはならぬといふ結論を與へられないで、展覽會のやうな形になつて居はしないかと思ひました。凡てかういふ種類の大會は勢ひ止むを得ないので有ます。併しこゝに見逃すとの出來ない太なる利益が伴はれて居るのです。即ち此大會に出す前に、遊戲なり、研究問題なり各部會、各保育會に於て研究しぬくのです、晴れの場所に出る前に各自競争的に調べ盡すのですから其利益は莫大なものと云はなければなりません。大會に關するとは之れ丈に致しますが此大會が私共に特別な優遇と大なる利益を與へられました事は深く謝する所であります。

翌日は豊園幼稚園にゆきました。丁度青島占領の祝賀會で、生徒は旗行列に出かけて行つたので、

遊園や池や玩具などを見て歸りました。玩具は別に東京と變つた事はありませんでした。弓と矢を遊具に利用されてゐるのは一寸珍らしいと思ひました。幼兒百七十名保育料は區内五十錢區外一圓、保姆五名俸給は二十六圓乃至十五圓まででした。設備もよく遊園も中々曲折があつて面白いと思ひました、唯室内の疊敷は疑問でせう、こゝの園主任司馬氏は勤續永く保育會創立以來幹事を續けて居る、得難き實際家であります。

午後は祝捷會の爲め學校が休みになりましたので、一寸失敬して嵐山に郊外視察に出かけました。見れば峭峽にそうて尋常一年位の生徒が教師に引率せられて歩いて居る、かゝる明媚な山水を近くにもつて居る學校や幼稚園は羨ましくなりました。次の日は日彰幼稚園に參りました。小學校も有名であるし、附屬の幼稚園もよほど奮いのです。園兒百名、保姆五名、俸給二十二圓から十圓まで平均十六圓です。保姆室に丈三尺位の京人形(時

價二圓餘）が澤山備へてありました又子供が晝をかく時、かたに用ゐるために鳩や馬犬などが厚紙で出来て居ました。これが皆保母の手によつて出来たと聞いて誠に嬉しく思ひました。遊戲室保育室と廊下にはうすべりが敷いてありました。豐園が全部疊敷きであるに比してこれは大層よいと思ひました。一と組は此の日がお時さんといふ子供の誕生日で、皆がいろ／＼の折り物を作つて、お時さんに祝つてあげるうるはしい心情が見えて居ました。他の二た組は折紙と描き方でした。お辨當を見たいと思ふたのですが、此幼稚園では皆食事に歸るのです。お辨當を持参させやうとすると家庭で特別に玉子や魚など調へねばならぬので苦情が出るといふ事でした。京の著だふれといふが著る物よりは食物の方を、殊に幼兒には注意してほしいと思ひました。此の園は富豪の集つて居る所であるから強制的に辨當を持たせる方がよいと思ひました。次に生祥幼稚園にゆくと、創業の際で何

の準備もない處でした。園長さんに遊具玩具に就ての考を聞いて見たら「子供に教はり乍らいろいろこれから準備致さうと思ふて居ります。」と云はれたので此園長さんはなか／＼面白いと思ひました。保母は高等女學卒業生二人だけで、園長が養成しつゝやつてゆかうといふ積りらしいのでした。

京都で私の見ましたのは以上であります、京都には幼稚園が上京に八、下京に五、私立五、保母四十九人俸給最高二十八圓、相當の資格をもたぬ雇ひ保母が六分の一あるやうでした。京都市保育のため頗る遺憾に思ひました、この點は大阪神戸に比して遜色があります、これ其保育の進歩の緩やかなる一原因であります。保育會の費用は各園から五圓づゝ、大會の時には京都市から二百圓、各園から十二圓づゝ支出する事になつて居る。幼稚園主任の會が年に二回、保母の會が毎月一回、過去七ヶ年間に講習十一回、研究問題が三十八、遊戲新案四十三といふ統計です。保育會としてはよ

ほど仕事が出来て居るのですが、園児が概して活氣に乏しいやうです。これは土地の關係もあり家の構造より來る影響もあることゝ思ひます、保姆の方の一層奮發を要する所であります。

十一日に大阪の女子師範附屬の幼稚園にゆきました、園外保育の時間で園児が留守なので大村女子師範學校長に面會を得ました、同氏は大阪市保育會副會長で大層親切に大阪市保育の一般を話して下さいました。次に御津幼稚園へ参りました。丁度食事を見ました。大きな子供はテーブルにクロスをかけて、自分たちの作つた花瓶を真中において、お庭から花をもつて來て之に挿してお辨當を始めました、如何にも喜ばしうな様子でした。お庭に出て見ると、お山の方でも松の木蔭で一組御馳走の最中でした。夏の水泳場の上には板が敷いてあぶなげなく運動が出来るやうにしてあります。小山園長に此園についていろ／＼伺ひました。保育案は豫定を簡單に其日の経過は最も可

寧に書いてありました、又遊園に於ける觀察が極めて眞面目に要領を得るやうに記載して居られました。

それから子供が遊戲室に集つて來る處を見ました。皆元氣がよく如何にも愉快さうである。相撲と擊劍を見せてもらひました。相撲の土俵場は疊を圓形に作つたもので中から半分にたゝめるやうにしてありました。行司が立つて居て勝方の方へ軍配をあげると周圍の全幼兒が一齊に手を打ちて勝つた方へ聲援を與へる愛らしさは詞では形容が出来ません。擊劍は形だけですが皆木刀をかまへて保姆の號令によつて進退するのです。おめんと云つた時は進む、おどろといつた時は退るやうにしてあるからあぶなげは少しもありません。

課業がすんでおしまひの會集の時は園児一同集つて來て「先生さよなら」「皆さんさよなら」と如何にも明晰にしつかりと云ひました。「けふのけいこもすみました」といふ歌を唱へる所もありま

すが何もかも唱歌せめにしては唱歌の食傷をする
と云はれましたが私も同感です。朝の會集の時も
保育室で整容の後兩陛下の御眞影の前に靜に禮を
させ次に先生と同友にお早ふと挨拶をさせます。

氣をおちつける爲めと我慢のけいこをさせます
(僅かの時間)「しつけ方の要目は！」と尋ねると
「子供子供によつてしつけるやうにして居る」と云
はれました、躰方要目は昨日小山園長さんが持つ
て來て下さいました御覽下さい。又おもちゃでお
もしろいと思つたのは、きれで作つた人形に襦袢
こし巻著物、帶、エブロン(ボタン止)が著せさせ
てありました。これは衣服の仕末をする練習をさ
せて居られるのでした。

小山園長が兒童學會委員會へ行かれるので途中
迄案内をしていたいて[○]鞠幼稚園へきました、園
兒二百五十三人保育料三十錢、幼兒は歸つた後で
した。こゝには畫の上手な保母が居られて遊戲室
に掲げてあつたのも皆保母が描いたので畫家のと

は違ひ子供に適する様に書いてありました。此の
日は保母總掛りで繪合せの玩具を造つて居られ
た、其の繪も保母の手に成つて居た、實に保母の
手に成る玩具は尊いものだと思ひました。

此園の遊園は特長がある、見るもうるはしく上
るも面白き築山の下に便所と隧通が設けられてあ
る、即ち便所の上に築山がある、便所は通風の窓
は一方にあるが少し嗅氣がある。併し土地を利用
して美觀を添へて居る點は慥かに長所である、又
保母の主任は四十七八歳で部下の保母は五人共二
十前後何れも正教員の資格がある、こゝの老主任
が活氣ある若手を引廻して、しかも部下が忠實に
働いて居らるゝのを見て、多く見ないよい現象だ
と思ひました。

次の十三日には大阪市に於て最も創立の古き愛
[○]珠幼稚園を見ました、始業前に此園に行きました、
此の日は十四日に青島陷落祝賀の遊戲會を舉行す
るので其の豫行をなすべきので、明日來賓として

來るべく親切に云はれましたが私の豫定もあるの
で強ひて參觀を乞ひ、先づ保育室や設備を見まし
た、中々立派でした、遊園に稻を植ゑ米を取り、
これがかしいで小さな座敷で食事を幼兒に饗し作
法を教ふるといふ事です、又神様ごとと申して、
衣冠束帶から樂器まで備へてある、月一度づゝこ
れを用ひて遊ぶ、他で聞きましたのにはこれに費
す時間は一時間位で、中々見て居ても骨だといふ
事でした、やがて遊戲室に導かれて、豫行を見ま
した、君が代の合唱より始めて數番の遊戲と話し
方がありました。

此園は躰方に重きを措いて、何事も辛抱する我
慢するといふ事が一貫されて居る、故に唱歌のあ
る一點を直すのに直る迄は幾度もつゞける、遊戲
も同様である、泣く子も我慢せよと教える、慰める
のでない、私の參觀中に幾つも實現されて居まし
た、子供に對しては少しく嚴に過ぎて居ないかと
思ふた、子供に活氣と面白さうな様子が見えな

いのは頗る遺憾でした、併し園長が此園に赴任さ
れて四箇年、部下の保姆の更迭も行はずに自分の
主義を一貫せしめた所は中々の手腕です。此園は
園長五十圓保姆三十圓乃至十五圓一年の經費六千
餘圓園長を加へて常に三人の手あきがある點は中
々せいたくと思ひました。

愛珠を辭して江戸堀幼稚園に参りました。恰
度終りの會集の時でした、幼兒の嬉しさうな顔色
は一層深く目に映じました。設備の一般を拜見し
て廻りますと一室に金釧の學生が二十人計りの婦
人に何か講義をして居るやうです、膳主任に聞き
ましたところ、此の學生は醫學專門學校の生徒で
心理學の造詣が深く特に幼稚園教育に興味を持て
居る人で、保育の實際を見て適切な批評を出す竹
村氏である、婦人は各園の主任保姆が多く、こゝで
フレイベルの「人の教育」を研究して居る、保姆は
皆純粹の特志家で皆自發的に出掛けて來て居ると
いふ事です。斯學に造詣が深いと云へば一學生を

も師として大に研鑽するといふ保姆の意氣其篤學實に其熱心の度思ひ遣られて懷しく思ひました。

此の園は幼児二百四十名保姆六名三十五圓乃至九圓一年の經費二千六百餘圓で、主任保姆膳たけ氏は、西區の牛耳を取つて居る、特長は有名な自然物應用です。膳氏にその由來説明を聞き參考品を貰ひ受けました、此の自然物應用は自然物に接せしめるといふ外に經濟的基礎を造り理科的知識殊に觀察科の素養を與へ庶物應用の工風する力を練る、我國將來に適切なる實業的基礎となるものである事を感じました。此の江戸堀は市内にあつて山野に遠いが熱心は其蒐集する難事を容易ならしめて居る、皆人は其成績を見て其説明を聞いて感服はしても熱心と根氣とが繼かない、どうかこの自然物應用は小學迄も及ぼしたいと思つた。

大阪市は東西南北の四區に保育會がある。經濟は保姆年一圓賛助員も同様で其賛助員が四百内外です。それで一年の經費は四五百圓、本市の保育

會は此の四區から各三十圓づゝ出して百二十圓の經費で仕事をして居る、區保育會は以上の多額な經費で講習なり出張見學なり講演會なりを盛にやつて保姆の學力補習に力を注いで居る、又主任保姆は其れ以外に自費を以て修養の途を開いて居る彼の江戸堀にあつた有志講習の様なものである。

大阪市は京都市より待遇がよい、住宅料も被服料も給與されて居る。翌十四日には神戸に行つて頌榮幼稚園を見ました。林檎を外部から觀察させておいて之を幾片かに切つて内部を見せて、粘土、繪具色鉛筆など子供に思ひ／＼の繪をかゝせて居られました。子供に其撰擇を任かせた所は參考とすべきです。保育室では感謝祭の準備で旗を作ることが課業になつて居ましたから豫期したほどの利益を得ませんでした。がハウ氏の子供に對する所は自由を尊重し活動を重んじて居る様であるが、幼児の身體に留意して居る點を見ることが出來なかつた。又どうも子供と外人とは言語動作の上に、

びつたり合はない所が多いのと、多少抑へ氣味でありはせぬかと思はれました。

短時間で且課業が常と違つて居たので關西隨一の幼稚園として有名なる眞價を見ることの出来なかつたのは頗る遺憾でありました。午後神戸幼稚園へ行きました、こゝは今日運動會を行はるゝので運動會場迄参りました。場所は山の上でありました、こゝに數番の遊戲を見ました、中々活潑によく行はれました、場所が狭くて傾斜がありましたから、もそつとのんびりした所で行はれたら一層愉快を子供に與へたらうと思ひました。

子供は運動會が済むと父兄に渡された。達者に山を下りる。東京でかゝる事は一寸問題になりさうである、此日參觀に來た保姆が十四五人あつた、老年の方が却つて來賓競争に入つたり中々に元氣は盛んである、聞けば會が済んでから皆打よつて遊戲の練習をしたとの事です、私はこゝを辭して市役所に参りました、視學に逢つて保育の狀況

を聞きました、神戸市には公立が三つ、市から補助金(千二百圓乃至八百圓)を與へてある私立が四つ、一般市民も幼稚園の必要を認めて居る事が明らかであります、しかも小學校は狹隘で數が少なく困つて居るに拘らずかゝる盛況なるは羨やましい次第です、午後四時半に神戸幼稚園に参りまして、十時半迄望月園長と他公立園長二三の方とお話を致しました、本市の幼稚園は神戸部會兵庫部會とに分れて中々研究の盛んな様子です、既に檜崎文學士の心理學講演が済んで、現在は同氏を頼んで實地の批評を願つて居る、又小學校の低學年受持と校長と保姆とで一の協議會を起して其連絡を圓滿にし互に缺點を除かうとしてゐます、兎に角公私立の幼稚園が隔意なく相提携して研究と實施とに務めて居らるゝ所は敬服の至りです、此一致の中心はどうも望月園長にあるやうです、同氏は年輩は可成であるが、家を忘れて獻身的やつて居られる、大阪市の膳氏とよいコントラスト

であります。

此の園では一組つゝ毎日山登りをさせて體力の増進を計つ居る、これは體力のみでなく意志の鍛錬に大なる力があることは明らかです、よい思ひ付きと思ひます、これも先年倉橋先生が新標目といふ題で園外保育の必要を唱へられた結果でありませう、此の園外保育は京阪神共に盛んに行はれて居ます。

あまり長いお話をして時間が迫つて來ましたから遺憾ながらこれだけに致して置きます、要するに京阪神の何れも其土地の人をして必要を感ぜし

『ポール・ドンビー』(六)

|| 英文學に現はれたる子供(二十五) ||

岡田みつ

ポールは、を執つきり臥床を離れなかつた。彼は臥床の中で太人しく市街の物音を聽いて居た。

どうして日々の時が經過て行くかは氣に止めず唯四邊の事物に目を配つて能く觀察てゐた。

める迄に努力せられ保姆の學力を補充し研究して進まうとせらるゝ勢がありと見えて居る事は斯道の爲め慶賀すべき事と思ひます、どうか研究の範圍が幼兒保育といふ園の内に深くあつて、實際といつても結び付いて關西の原動力たるを祈つて居る次第であります、終りに臨み京阪神視察について到る所歓迎せられ親切に敎示せられたことを謝し將來關東と相連結して氣脈を通じ東西呼應の實を挙げたいと思ひます、言たまゝ常軌を逸したる所は深く京阪神保育界の方々に謝する次第であります。(筆記、文責在記者)

揺らぐ窓の被ひから日光が室に射し込んで、それが突當りの壁に黄金色の水のやうに漂ふと、ボールは『夕方が來たのだと知つて空の色が赤くて美しからうと思つた。入日の影が消えて、暗黒が壁の隅から這ひ上つて來ると、ボールは其が次第次第に夜に變つて行くのを熟と見詰めて居た。彼は、心の中で、長い市街には所々にランプが點火つて、星が靜かに頭の上で光つて居るなと思つた。彼の空想は、兎角に、此大都會の中央を流れてゐる大河の方へ、飛んで行く傾向があつた。あゝ今頃は水の色が眞黒で、多數の星を宿してさぞ深く見えるだらう。而して殊に混々として、海へくと走つてゐる事であらうなどと考へた。夜が更けて、街の人通りも稀になり、遠くからの足音が近づいて來て、一寸止まつてまた彼方へ響を立て、消えて行くのがはつきり解る時刻になると、ボールは、枕邊の燈火の周圍に見える光の輪を見守つて、次の朝を氣長く待つのであつた。唯心に懸か

る事は、あの瀬の早い河の流れで、時にはどうかしてそれを堰き止めたいと思つて、小さな手で支へやうか、砂で塞がうかと苦心して見るが、依然河は委細構はず流れくゝて行くので彼は泣き出して仕舞ふ事もあつた。さやうの時には、いつも傍を離れず看護してゐる姉が、一言聲を懸けると、彼はすぐ機嫌を直して、姉の胸にその可憐の顔を押し當て、見た夢の話をして微笑した。

夜が白むで來ると、彼は日の出を待ち構へた。やがて、朝日が陽氣に室内で躍りかけると、彼は心に、高い寺院の塔が朝の空に聳えて、都會が再び蘇生て、河が流れ(いつもの通り瀬が早く)ながらピカ／＼光つて、田舎が露できらめいて居る處を描き出した。其内に聞き馴れた物の響や人聲が漸々下の街に始まり、家の中でも召使の者が起き出て、立働く氣色がし、人の顔が室の入口に幾度か見えて、小聲で夜伽の者に彼の容體を尋ねるのが聞えた。いつも、ボールは、自分で「僕はよい

方だ。大分快方^いンだ、ありがたう。父様にさう申上げて御くれ。」と答へた。

少しづい、ボールは日中のガサ／＼する物音――車馬の響や、來往^{ゆき}の人の足――音に疲れて、眠る事もあり、また流れて止まぬその河に責められて不安な、せはしない氣分に捉はれる事もあつた。「河はいつつて止まる時がないのでせうか、姉さん？僕はだん／＼河に連れて行かれるやうな心持ちなの」と折々姉に語つた。

姉は、いつでも、ボールを慰めて安心させてやつた。弟は、また毎日姉を勧めて、自分の枕に頭を載せさせて休息をさせるのが樂みであつた。「姉さんは始終僕を見てゐて下さるから、こんだは僕が姉さんを見張つて上げますよ。」といつて、自分は臥床の片隈に蒲團を支へに起き上らせて貰つて、姉が傍で眠つて居る中その姿を見守つては、時々撫で慈み、傍の者に對つて「ネ、姉さんは草臥れて居るのですね。幾晩も――夜更けまで僕を看

病するのでね」など、囁いた。

又其の暑くて明るい夏の日も終り近くなつて、黄金色の水が突當りの壁に漂ふ頃となるのであつた。

ボールの所へ醫者が三人も來た。階下の室に集まつて、三人一所に上つて來るのが常であつた。診察中は室が森^{しん}としてゐて、ボールは一人／＼をよく觀察するので（その醫者達が何と言つて居るのだからボールは誰にも問ひ質した事はなかつたが）三人の時計の音の差違^{ちが}ふのさへも知つて居た。一番ボールが注目したのは、ベツプ先生といふ醫者であつた。この醫者は、ボールの母が。フロレンスを抱いたまゝ、息が絶えた時に、傍に居た御醫者である、と前に聞いた事があるので、其を記憶してゐて、それが爲に此人が好きなので、恐い人だとは思はなかつた。

ボールには、周圍に居る人が不思議に變つた。ベツプ先生だと思つた人が、御父様になつて、兩

手に頭を埋めて居たり、ビブチンさんが安樂椅子でうとうと眠つてゐたと思ふと、それがトックス伯母さんに變つたりした。(いつも變らないのはフローレンスばかりであつた。)ボールは時々目を閉ぢては、こんど目を明くと誰に變はつて居るか知らむなど、平氣で考へる程であつたが、兩手に頭を埋めて居る人の姿が、幾度も現はれて、その姿がいつも同じ格好をして居て、物も言はず人からも話しかけられず、滅多に顔も上げないので、ボールは物懶げに「あれは眞實の人かしらむ」と思つてゐた。夜になつても、その姿がまだ其處に居ると、少し恐いと思つた。

ボ「姉さん、あれ何？」

フ「何處にあるの？」

ボ「あれ、あすこに、僕の臥床の裾の邊に」

フ「何にもないのと。御父様ツきり。」

その姿は、頭を上げて立ち上り、傍近くへ來て、「ボールや、父様がわからないかへ」と言つた。

ボールは、その顔を見て「之が僕の父様か。」と思つた。どうも變つてしまつたと熟と見入つてゐるうちに、その顔は非常に苦痛の面持になつた。ボールは兩手を伸して、その顔を捕へて引寄せやうと思ふうちに、その姿はつと臥床の側を離れて、室から出て去つてしまつた。

ボールは胸をどきどきさせながら姉を見たが、姉が言ひ出さうとして居る言葉を豫想して、急に姉の唇に自分の顔を押付けて、言はせないでしまつた。その次の時に、臥床の下手にその姿を認めた時には、ボールは聲を掛けた。

ボ「御父様、そんなに僕に御氣遣ひなさるな。僕は氣持がいんですよ。」

父は傍へ來て身を屈めた。(大急ぎで、臥床の傍で立停りもせず)。ボールは父の首に絡み著いて、今の言葉を繰り返し／＼本氣になつて告げた。それから、晝間といはず夜といはず、父の姿さへ見れば「心配してはいけませんよ。ほんとに僕は氣

持がよいのです。」

と聲を掛けた。朝毎に彼が「大分快い方だ。父様に申し上げて御呉れ。」といふやうになつたのは、之から始つたのである。

黄金色の水が何遍壁の上で躍つたか、幾晩暗い暗い河が海を指して流れ／＼たか、ボールは數へもせず、又數へやうともしなかつた。人々のやさしい親切が増せるものならば、其親切は確に増したので、ボールの其に對する感謝の情も益々深くなつて來た。しかし此哀れな子供の心には、此先の日數が多いか少ないかは殆ど念頭になかつた。

ある夜、ボールは母の事や、階下の客間にある母の肖像畫の事を考へて居た。「母様は父様が姉さんになさる位でなくもつと姉さんを可愛がつていらしたに違ひない。もう死にさうだと御思ひになつた時に、姉さんを抱いていらしたと云ふから。僕だつて是程に姉さんが大好きなのだが、死ぬ時に姉さんの近くでと願ふより他に望みがないのだ

からな。」など、想つた續きに「僕は自分の母様を見た事があるか一度訊いて見やうか知らむ。見たといつたか見ないといつたか、前に聞いた答をよく記憶しない。河がはやく流れて居て頭腦あたまが混雜してゐたので、」と考へた。

「ボ「姉さん、僕は母様を見た事ありますか。」

「フ、いゝえ。何故？」

「ボ「では、僕が赤ン坊の時には母様見たやうな優しい顔の人が僕を見てゐて呉れなかつたのですかね。」

と訊いた。そんな筈はない、何だか優しい顔の見覺があるやうなと思つた。

「フ「ありますよ。」

「ボ「誰なの。」

「フ「あなたの以前の乳母はあやよ。始終あなたは見てゐたのよ。」

「ボ「僕の以前の乳母？ 何處に居るの？ やッぱり死んでしまつたの？ 皆誰も／＼死んだの、エ姉

さん、——姉さんだけ置いて？」

室内が動搖めいた氣配であつたが、一寸の間で、やがて又元のやうに寂寥ひっそりとした。フロレンスは蒼あさ白の顔に微笑を浮べて、ボールの頭を抱へた。その腕は慄へてゐた。

ボ「姉さん、その乳母を呼んで頂戴どうぞ。」

フ「此處ここには居ないのよ。明日來ます、ね。」

ボ「さう、ありがたう。」

ボールは、目を閉ぢて眠つてしまつた。目が覺めた時には、日が高く昇つて、明け離れた日は晴れて暑かつた。ボールは、明け放してある窓を見て、風にフラ／＼してゐる窓掛を眺めて、

ボ「姉さん、もう明日になつたの？　乳母は來まし

たか」と尋ねた。

誰か乳母を連れに行つたらしい。女中のスザンダツたかも知れない。さういへば、スザンが「直ぐに返つて參りますよ。」と言つたやうだつたが、實際じつじやう契つぎへた言通りにしたのだから、全然まるつきり出て行かなか

つたのだから、何にせよ、階段に足音がして、ボールはハツとまた目が覺めた。——心身ともに——而して臥床の上に起き上つた。周圍の人が明瞭はつきり見えた。今迄のやうに霧のかゝつたやうな氣持がなく、ボールは皆を認識ひともめして、一人／＼の名を呼んだ、

ボ「其から之れは誰？　これが僕の以前もとの乳母なの。」

と今入つて來た人を笑み零こぼれて迎へた。

さうとも／＼。乳母でなくて、誰が此子を見て、涙を落し、「可愛いとい、坊ちやま、御可憐い御子様」など、呼ぶものか。乳母でなくて、誰がその臥床とこの傍に坐つて、この子の瘦せ細つた手を取つて、自分の脣や胸に當てるものか。乳母でなくて、誰が人前をも忘れこのやうに同情慈愛の情を露出ひきだしにするものか。

ボ「姉さん、乳母の顔は優しい良い顔ですね。僕は嬉しいよ。乳母、彼方あつちへ行つてはいけない。

此處に居て御くれ。」

ボールの知覺は鋭敏になつて、ふと聞き覺えの名が耳に入つた。

ボ「ラルター（店の小僧）ツていつたのは誰？ 誰だかラルターツて言ひましたよ。ラルターが此處に居るの。僕は遇ひたい。」と四邊を見廻した。

誰もすぐとは答へなかつた。父はやがてスザンに向つて「では呼び戻して來い。上がつて來いッて。」と言つた。ボールは、待つ間、ニコ／＼して珍らしさうに乳母を見、乳母がフロレンスを忘れずに居たのを嬉しがつてゐたが、その内にラルターが入つて來た。この少年の快活な、無邪氣な顔貌と容子が、いつもボールに氣に入つてゐたので、今も一目ラルターを見ると、すぐに手を出して「さやうなら」といつた。ビブチンさんは、急いで臥床の上手^{かみて}に來て、

ビ「さやうならですつて、ボールさん。さうではないでせう。」と聲を立てた。

一寸、ボールはビブチンさんに目を移して、以

前あの學校で、火の前に坐つて、ビブチンさんを眺めた時と同じ顔をしたが、落付いた調子で、

ボ「いゝえ、さやうならなのです。さやうなら、ラルター、さやうならー」といつてラルターの方へ首を向け、手を伸しながら「父様は何處？」と尋ねた。

父の息が頬^ほに觸れるのに氣付いて、ボールはその顔を見入りながら。

ボ「御父様。ラルターを願ひます。よう御坐んすか。僕ラルーが好きだったんですから。」と言つて、その弱い手を振り動かして、亦改めてラルターに「さやうなら」をする風であつた。

ボ「さ、横にして頂戴。姉さん、僕の傍へすつと近く來て下さい。而して僕に顔を見せて下さい。」姉弟互に腕を組み合せた。黄色の光線が流れ込んで來て抱き合つてゐる二人を照した。

ボ「河がドン／＼流れて居ますよ。兩岸に葦があつて青々してゐる中を、姉さん。もう河は海に

近いの。あ、波の音が聞こえる。」

暫時してボールは又語つた。河の上を自分の乗つてゆく小舟が軽く揺れて、眠氣が生じて來たとか、河岸が青々して、其處に咲いてゐる花の色が美しく、葦が背が高いとか、あれ、小舟が海に出て平らに滑るやうに走つてゆく、向ひの方に岸が見えて來た、其處に立つて居るのは誰だろう。などい。ボールは、祈禱をする時にいつも爲るやうに、

應 接 十 分 間

客「みどりさん先日お約束の繁さんのお話して下さいな」

み「あさうで御座いましたね、ぢや申上ませうか。とある日私は子供を歸してから例の如くせつせと掃除をして居りますと繁さんのお祖父さんが見えて。

「先生坊やもう歸りましたか。

手を合せた。その爲に態々腕を動かさないで、姉の首の後部で手の先を合せたので。

ボ「母様は、姉さんに似て居ますよ。顔で直ぐと母様だといふ事はわかる。此家の階下にある版畫は神々しさが足りません。御頭部の邊の後光が僕にまともに放射してゐる。」

黃金色の光の波は壁の上に再び來たが、室内に動くものはもう何も無かつた。(完)

み と り

「おや、お逢ひになりませんでしたか今しがた小學校の重ちゃんと一緒に歸りましたが。

「あ、さようで、ぢや、道が違ひましたんで御座いませう唯々々。

後は聞かずに返事許りして歸て行かれる。

其後影見送て私は思はず吹き出しました。

何故ならあの脊の高い、顔の長い、鼻の頭の赤

い六十のお老爺さんが唯六つの繁さん相手に押入に隠れたり泣く眞似を爲るのかと思たからです。

それはかうでございます。

或日繁さんが申すには、先生僕ね昨日幼稚園から歸つたらねお祖母さんが繁ちゃんお祖父さん居ないよつて云つたから嘘！居る／＼つて搜して段々搜したらお二階のお戸棚にかくねて居たからめつかつたつていつたらお祖父さん笑つて這ひ出して來ました云々。

又或時、先生僕は昨日お祖母さんと甲武に乗つて青山へ飛行器見に行つたんですそして歸つたらお祖父さんおいてきぼりされて淋しい／＼つて泣いて居ました云々。

まあこれだけでも大體家庭の様子がわかりませうが一體繁さんの御両親は滿洲に行つて居られるので繁さんはお祖父様お祖母様の御手許に残されてそれこそ老夫婦から掌上の玉と慈しまれ餘生を照らす光明と頼まれて楽しい朝夕を過して居られ

るのです。

實に老夫婦が限り無き愛は繁さんの五體に充ち満ちて或は快活なる動作となり笑となり言葉となつて絶えず荒廢空虚なる私を惠んで呉れます。

先日一日此幼兒が休みました時、日はうら／＼と照り乍ら紅葉は赤々と映え乍ら何だか曇つたやうで私は私の心に穴でも開いたのぢや無いかと思ひました。

いゝえ誤解して下すつては困りますよ、其愛らしいと云ふのは單に輪廓の正しい顔立に素直に鼻筋とが通つて可愛いゝ口と秀でた眉と人一倍長い睫毛涼しい二重瞼の眼とを持ち笑ふ度毎にゑくぼを見せる許りぢやありません。

其聯想其情緒が實に何とも云へぬ美しさを持つて居るからで御座います。

まあお聞き遊ばせ

さう何でも五月の下旬頃でした或方から櫻坊の可愛いゝのを頂きましたからお歸りの時皆に二つ

三つづゝ分けて遣りましてから。

皆さんがわけて頂いてようございましたね、それ
お家へ持つて入らしつてどうなさいますかと尋ね
ましたら、繁さんがね、大事にお湯へ連れて行て
ようく温めてやります若し道へおつこつて待つて
下さいよと泣いき待つて居て一緒に歸ります。

六月上旬青嵐烈しき日の事でした「今日は外へ
行くと大變ですな風が吹いてと申ます」と誰かが
エ、吹つ飛ばされます飛行器のやうにと申ます。

すると繁さんが、

僕と亘かちちゃんと帽子のブローペラを冠て片々の手で
仲好しても片々の手で翼はねをこしらへて腰へ草履袋
の車をつけて水道橋迄子供の飛行器が来たよゝ
て皆を驚かして往て復ります。

六月廿二日或方から幼児一同に枇杷の苗を下す
つたので其お禮の手紙をかかうと申ますと他兄は
大方「枇杷を下すつて難有御座いました」と申し
た中に繁さんは申しました。枇杷の實が生つたら送

て上げます。

十月卅日雨が降つて風が吹く日、晝飯の時熱と
窓外を眺めて居ましたがやがて先生（もみち）（楓）
の葉が葉のお母さんで彼方あつちの小さい葉（まゆみ）が
葉の子供で梧桐が葉のお父さんで今日は僕達が出
ないものだからどうしたんだらう子供が一人も外
へ出ない淋しいゝつてお話して居ます。あ、お
いでゝゝして居ます。

それからまだありますよ十一月二日の事でした
前日に移植した廿日大根を裏の畑に見舞てから菊
花壇の中を歩いて居ますと。

先生僕今日来る道でね丁度赤と黄と白との花が
有つたから、お庭の垣根の菊の花と唱てやつたん
です。

さうしたらね花が喜んで赤いのは赤い顔して笑
つてるし、黄色いのは黄色い顔して笑つてるし、
白いのは白い顔して笑つて居るから僕も笑てしま
つたんです。

十一月四日に柿の觀察をしましてね、いよ／＼皮を剥かうとして「どうぞ長く續くようにつて願て頂戴」と申ますと先生若し切れたら柿が悪いですねと何處迄も同情して呉れます。

又十一月五日葡萄を頂きましたので蔓を用意して參りまして其の延び行く様等語り聞かせましたら、

先生僕家にもさう云ふのが有りますそして柘榴の處迄遊びに行て二人で仲好く遊んで居ます。

もうやめませうかではもう一二上ませう。

十一月某日晝飯の時少し落付かぬ子供が有りましたので静にして午砲の鳴るのを聞きませうねと云ひますと又繁さんが

騒いで居ると此處はいやだつて午砲が他處へ逃げて行つて聞えませんか。

え、さうですよ皆逃げられないように致しませうねつて、よい言草を教へられお蔭で静に頂きますることが出来ました、それから遂此十一月の廿七

日でした五六人の子供が箱庭の周圍に集つて玩具の動物を一處へ集めて居りますので用があつて保育室へ行く脚を留めて、

何をして居ますかと問ひますと動物が喧嘩して居るんですと答へます「まあ喧嘩は御免です」と軽く申して保育室へ急ぎました暫くして戻りますと繁さんが、

今度は異ひましたと呼び掛けます。

さうですか今度は何ですか。

あのね犬と牛と御免なさいして馬と羊と又御免よつて今度は用意ドンで駈けつこして居ます……こんな調子で其處をとりなして呉れますので私はお蔭と楽しい日が多く又他兒も共によるこんで聞きますので不知不識の間に美しい話も少しは出来るやうになりました。本當に繁さんは私のよろこび私の慰めで御座います。

もう此でお約束は御返し致します今度はどうぞあなたからよいお話を御聞かせ下さいませ。

も み ち

～ 調 二 拍 子

3	1.	3	5	5	5	3	2	1	6	6	6	1	5	1	5						
ニ	ア	カ	イ	モ	ミ	ザ	キ	ー	ロ	イ	モ	ミ	ザ	マ	ツ	パ	ト				
て	あ	か	い	も	み	ち	き	ー	ろ	い	も	み	ち	ま	つ	ば	と				
1	3	3	2	2	5	5	5	0	6	6	6	5	3	5	3						
イ	ツ	シ	ョ	ニ	カ	キ	ヨ	セ	テ	カ	ゴ	ニ	イ	レ	タ	ラ					
い	つ	し	ょ	に	か	き	よ	せ	て	か	ご	に	も	つ	た	ら					
2	3	2	12	3	0	1	5	1	5	1	3	3	2	1	2	3	2	1	0		
チ	リ	ー	ダ	シ	タ	カ	ー	ゼ	ガ	フ	イ	タ	ラ	ミ	ナ	ー	チ	ツ	タ		
う	つ	ー	く	し	い	お	か	し	の	や	う	ー	に	う	つ	ー	く	し	い		

第二十一回京阪神聯合保育會提出遊戲ノ歌曲

も み ち (圓形)

一、赤いもみち (一部ノ幼兒兩手掌ヲ開キモミザノ形
チナシツ、少シク圓ノ中心ニ進ム)

きいろいもみち (残りノ幼兒前同様ノ動作チナス)

松葉と一しよに (一同手ヲ繋ギ合ヒツ、中心ニ向
カキよせて (ヒ小圓ヲ作ル)

籠に入れたら (前ノマ、ニテ
散りだしたら (後方へ退ク)

風が吹いたら (各兒自由ノ
皆散つた (方向ニ走ル)

二、赤いもみち (拍手シツ、
きいろいもみち (圓形作ル)

松葉と一しよに (兩手ニテ落葉チカキ
カキよせて (集メツ、中心ニ進ム)

籠に盛つたら (兩手ヲ高く舉ゲ盛りタル形
美し (チナシツ、モトニカヘル)

お菓子のやうに (踞ミ兩手ニカ菓子チ
美し (載セテ見ル様チナス)

(京 都 市 保 育 會)

ト調 $\frac{2}{4}$

號 外

5 5	5 5 5 5	3 3	3 3 3 3	1 5 3.1	5 3 1 0
チリンチリン	チリンリンリンリン	チリンチリン	チリンリンリンリン	號外號外	號外ヨ
1 1 5 1	2 —	3. 3 3	5.5 3 1	2. 2 3. 2	2 —
桃 太郎	ハ	オ ニ ガ	シ マ オ バ	ウ タ ノ ト	テ
、 、 、	、	、 、 、	、 、 、 、	せんりやう	し
5.5 6.6	5.5 3 1	2 5. 5	1 —	5 3 5 3	1 5 1
ヘ イ タ イ	ヒ キ ヅ レ	出 バ ツ	ス	チ テ チ テ	タ ト タ
た だ い ま	め で た く	旋 凱	す		
3 3 3 1 3	1 5	5 3 5 3	1 5 1	3 3 3 1 3	1 0.
テ テ テ タ ト	タ ト	チ テ チ テ	タ ト タ	テ テ テ タ テ	タ

1. 桃太郎は鬼が島をば うたんとて
 兵隊 ひきつれ 出 發 す
 2. 桃太郎は鬼が島をば 占 領 し
 只 今 目 出 度 凱 旋 す

(二列ニ整列シ兩方ニ分レテ一列縱隊トナル)
 前奏ノ間駢歩ニテ位置交換

1. ちりんくりんく

列ヲ放レ各自思フ方向ニ駢ケ行ク

號外々々々々よ

駢ケ作ラ左手ヲ以テ號外ヲ持チ右手ニテ配達スル容ヲ
 ナス(以上三回反覆)終リニ各其位置ニ止リ號外ヲ讀ム
 容ヲナス

桃太郎は、、、、出發す

號外ヲ讀ム積リニテ

チテチテタ、、、、、

喇叭ヲ吹ク容ヲナシ一列縱隊ニ返ル

2. 號外ヲ讀ミ終リタル時一同雙手ヲ舉ゲテ萬歳ヲ唱フ

チテチテタ、、、、、

鐵砲ヲ荷フ容ヲナシ舊位置ニ返ル

以下ハ一ノ動作ニ同ジ

(大 阪 市 保 育 會)

其 時 々

(= 調 二 拍 子)

1	2	3	3	5	5	5	6	6	5	3	5	0
オ	ホ	キ	イ	カ	ゼ	ノ	フ	ク	ト	キ	ハ	
5	5	3	5	6	6	5	3	5	3	2	1	2
オ	ニ	ハ	ノ	キ	ノ	ハ	ガ	ヒ	ラ	ヒ	ラ	ヒ
1	2	3	3	5	5	5	6	5	3	2	1	1
キ	イ	ロ	イ	ギ	ン	ナ	ン	バ	ラ	バ	ラ	バ

其 時 々

此ノ歌ハ名ノ示セル如ク其時其場所ニ適當スベク
歌調及動作ヲ交換シテ用フベシ例ヘバ大キイ雨ノ
フル時トアルヲ大キイ雨ノヤンダ時ト小川ニ水ガト
ウ庭ニ蛙ガビヨント改ムルガ如シ

1. 大きい風の吹く時は(圓形ニテ一同手ヲトリ右ノ方)
向ニ足音アラクカケ足行進)

お庭の木の葉がひらひら(各々任意外部ニ向テマハリ行ク)

黄色いぎんなんばら(ギンナンノ形ヲ作りツツ元
ノ位置ニ返リテ手ヲ上下ス)

2. 大きい雨のふる時は(一同手ヲトリテ左ノ方
向ニ足音アラク足行進)

屋根から瀧がどう(兩手ヲ上下ス)

お庭に川がざあ(カガミテ兩手ニテ水ノ流ルル形)

3. 大きいお日様あがる時(一同カガミテ手ヲトリ太
陽ノアガル形ニテ立上ル)

森の鳥はかあ(鳥ノ形ニテ早ク右ニ行進)

はたけの雀はちゆ(雀ノ形ニテ中心ニ入り又出ヅ)

4. 大きいお月様のぼる時(太陽ニ同ジ)

のきのかうもりひら(カウモリハ形ニテ外部
ニ向ヒ任意ニトビ行ク)

ねてゐる子供はぐう(元ノ位置ニ返リテホムル形)

此ノ歌曲ハ四五歳ノ幼兒ニ適スベク(ニ)調1ヨリ6ニ至ル
音域ニテ作曲シタレバ三歳位ノ幼兒ニハ(ハ)調ニ變更スル
方ヨロシカルベシ

(神戸市保育會)

保育入門 (十)

倉橋惣三

九、幼稚園教育の方法

第三、其の手段 (つづき)

二、動作遊戲

幼兒の精神生活を最も自發的に、最も具體的に、音聲によつて發表するものが唱歌ならば、之を身體の運動によつてするものが動作遊戲である。

元來、觀念なり情緒なりを身體的に表出する處の踊り、所作、身振りの類は、今日に於ては極めて發達したる藝術的技巧に屬するものとなつて仕舞つて居るけれども、其の原始的な性質に於ては頗る自然的自發的なものである。即ち、種々の感激に伴ふ夫々の身體的表出であつて、嬉しさに手の舞ふのも、感憤に拳を握るのも、乃至勇みて

肩を揚げ、憂ひて面を垂るゝのも、極めて自然の表出に他ならない。聲を發して歌ふよりも、或る意味に於ては一層原始的なものであるかも知れない。少くも、舞ひて歌ひ、歌ひて舞ふ、その自發性に先後のないものである。

殊に、音樂によりて促し立てられた心の自發は、到底靜的狀態に止まり得べきものではない。其の音波の一高一低につれて、手は手拍子し、足は足どりし、遂には浮き立てられて舞踊するに至るのが自然である。

其の具體性に至つては、唱歌よりも尙ほ以上である。最も眞實、最も具體なことを『身を以て』と

いふが、之れは即ち字義通り『身を以て』する生活である。只觀念として「喜び」といふよりは、聲張り上げて「うれしや」と歌ふ方が具體的であり、それよりも亦、うれしさを、手を振り足を舉げて身を以て踊る方が一層具體的である。

動作遊戲の本質を斯くの如きものとすれば、幼稚園教育の手段として、唱歌音楽と相似たる價值を有することも言はずして明かである。春の野を美しいやさしい音律に歌ふことが教育に價值ありとすれば、或は春風となり、笑ふ花となり、舞ふ蝶となり、身を以て春の野を踊るのは一層の價值を有するものとも見られる。少くも同様の價值を有するものであるに相違ない。其の相互的たる點に於て、其の情緒的基調の養成の上に於て、實に其の價值の大いなるを認めざるを得ないのである。

但し音楽唱歌の條に於て述べたると同じ注意は、此の場合に於ても必要である。すなはち、技巧よりも其の自發を尊重し、外部的の巧緻よりも、

内部的情緒の力を重んずることである。之れなければ音楽が其の生命を失ふ如く、動作遊戲も亦其の唯一の生命を失ふのである。のみならず、本來が唱歌よりも一層原始的一層自然的であるべき處よりして、一たび其の本來の性を失へば虚偽に墮するの危険の一層多いものである。空虚なる技巧を誇らんとするに至る危険の一層多いものである。すなはち實際上次の如き注意を要する。

(イ)、動作遊戲は、その動作者の受くる教育的効果を主とするのであつて、觀覽者を對象とするものではない。すなはち成るべくは幼兒全體が同時にする如きものをよしとし、若し少數者をしてなさしむる時と雖も、觀覽者を對象とする演技的興味を主とさせない様に注意しなければならぬ。

(ロ)、前述の如く、技巧を主とすべきものでないから、其の出來ばへの上手下手といふことを、能ふだけ問題外に置くようにしなければならぬ。

い。彼の往々にして、精巧なるものをして得意ならしめ、其の芝居氣をつのらしむる如きことは、深く警戒しなければならない。

(ハ)、無意味なる型に流れざらん爲、必ず有效なる音樂の力によつて其の根元的情緒を存せしむべきこと、殊に、濫用によつて、其の情緒の發洩たる生氣を失はしめぬ様注意することは最も必要である。

附言。幼稚園教育の手段として、音樂及び動作遊戲を考察するに當つて、茲には専ら其の第一義的本質が、如何に斯の教育の原則に適合するものであるかといふこと、此の意味に於て此の手段を用ふるに必要な注意の數條とを擧げんとするにつとめて、他の多くの問題を略したのは、それ等の諸問題が不要なりといふのではなくして、此の第一義的本質を明かにすること

が殊に重要な故であつた。しかし、教育の實際に於て、假令は音樂に於て音階の問題、歌詞の問題、題目撰擇の問題。動作遊戲に於て、題目選定の問題、筋肉運動上の問題、其の他、十分綿密なる研究を要すべきことは、甚だ尠くないのである。すべて教育の手段は、其の根本の意義を明かにすること、共に、末端的些細なる如き點にも深き注意を缺いては、到底教育的なりと言得ないのである。たゞし、如何に末端的注意に精なりと雖も、根本の第一義を明かにせず、之れを誤り或は失する如きことがあつたら、其の弊は一層大なりと言はざるを得ないのである。幼稚園教育の手段として一般に用ゐらるゝものゝ中、音樂と動作遊戲とに於て、殊に此の後の方の注意の必要が多いと思はるゝのである。

ビエウロダ
夫人の

フレーベル追懷錄

S K 生 譯

一、フレーベルとの初めての面會

一八四九年の五月の終に、私はチューリンギヤに於けるリーベンスタインの温泉に到着しました、而して前年と同じ家に宿を定めました。きまりの挨拶が交り換されて後に宿の主婦おかみさんは何か珍らしいことが此の土地に起りましたかといふ私の間に對して、二三週間前から或人が湧泉の傍の小さい耕地に居を定めて村の子供と一緒にたつて舞踏をしたり遊戲をしたりしてゐるので「馬鹿爺さん」と渾名されてゐるといふことを話してくれました。

數日の後、散歩の途上で私はこの所謂「馬鹿爺さん」に出會ひました。長い灰色の頭髮を持つた瘦驅長身の人が三歳から八歳位までの村の子供の一團を率ゐて居りました、子供は大抵裸足で衣服

も著てゐるといふのは名ばかりでありました、彼等は二人宛丘の上へ登つて行きました、その人は丘の上で遊戲の指圖をして、その團隊に屬する唱歌を子供と共に練習しました。

その人が、以て此の事に當つてゐる愛に充ちた忍耐と、何事をも棄て、顧みない様子と、自分の指揮の下に子供に種々の遊戲を行はせてゐる間に於ける始終の態度は、著しく人の心を動かすものがありました、それで私の連れの人も私も眼に涙を浮べました、而して私は連れの人に言ひました。

「この人はこの邊の人々に馬鹿爺さんと呼ばれてゐるのです、この人は屹度同時代の人々からは馬鹿にされたり石を投げ付けられたりして後の世の人々からは紀念碑を樹てられる人々の一人なので

せう」

遊戲が終つたので、私はその人に近附いて言ひました。

「お見受け申すところ、貴君は人民の教育をなさる、お方のやうですが」

「さうです、さうなのです」とその人は親しげな優しい眼を私の方へ向けて言ひました。

「それは當節最も必要なことでございます」と私は言ひました、「現代の人々が面目を改めるのであれば私達が聽がて實行せらるゝであらうと夢想してゐるすべての美しい理想は實現されることはありませんまい」

「眞個にさうです」と彼は答へました、「けれども面目を改めた人々といふのは私達が人々を教育しなければ出て來るものではありません、それです」

「けれども眞の教育は如何にして得らるべきでせ

うか、私達が教育と呼んでゐる所のものはどうも大抵愚にも附かぬ誤れるものゝやうに私には思はれる節が屢々あるのです、今の教育は可憐なる人の天性を常套的な偏見と不自然な法則の緊衣の中に押込めて獨創力が全然窒息してしまふ位矢鱈に多くを注ぎ込むのであります」

「それで私はこの事を防ぎ、自由な發達を遂げさせることが出來るかと思ふことを見出しました」とその人は言ひました、尙まだこの名前を知らぬ人は

「どうです、私と一緒に私の學校へ行つしやいませんか、もつと詳しくお話してお互ひによく理解の出來るやうにしやうではありませんか」と續けて言ひました。

私は同意しました、而してその人は牧場を横切つてとある田舎家へ私を案内しました、それは大きな底の中程に建つてゐて、まはりには外屋が建て並べられてありました、その人は此所を幼稚園

の保姆にならうとする若い娘達を教育する所に充てゝ居りました。

中程に大きなテーブルを据ゑた大きな室でその人は私を彼の學生に紹介してくれました、而して各自に割り當てられてゐる家政の種々異つた任務を私に話してくれました。この學生の中には彼の姪のヘンリータ、ブレイマンが居りました。

その人はそれから玩具の入れてある大きな押入れを開いて、その玩具の教育的の目的を説明してくれました、けれども私はその時は未だ彼の方法に効果があらうとは信じませんでした。私はたゞ「人は創造力を有する生物である」といふ一句をしか記憶に止めませんでした。

それは扱て置き、彼の人となりと彼の舉動ぶどうとは私に深い印象を與へました、私は獨創的な誤ることなき資性を有する眞の人と昵近になつたといふことを知りました。

彼の生徒の一人が彼をミスター、フレーベルと

呼んだ時、私は遊戲によつて兒童を教育しやうと試みてゐる同名の人に就て聞いたことがあるのを思ひ出しました。而して私はそれは甚だ間違つた意見であると思つてゐました、何故ならば私はただ何等の眞面目な目的を有することなき空虚な遊戲のことしか考へてゐませんでしたから。

フレーベルはリーベンスタインへ歸る路のいくらかを私と同道してくれましたので（リーベンスタインはフレーベルの住所から約一時間路にあります）私達は一八四八年の運動によつて喚起された大なる期待に對する失望に就て話しました、この運動に於て兩黨派の孰れもが正當ではありませんでしたし又望んでゐた改良を贏す状態に於てもありませんでした。

「闘争ストライクを経なくては何物も生じません」とフレーベルは言ひました、「反對する力が闘争を興奮させます、而して反對する力も漸々にその平衡を見出します、闘争はそれ自身では何物をも創造しませ

ん、それはたゞ空氣を清淨にします、私達が若し人格の花を咲かすべき木を持つてゐると思つたならば發芽し成長するために新しい種子が蒔かれねばなりません、けれども私達は今日の破壊的要素がよく爲す如くにすべての生育のよつて出で來るべき根を切り去つてしまはないやうに注意することが必要であります。

私達は過去若しくは未來から現在を引き離すことは出來ません、過去、現在、未來は時の三位一體であります、未來は生活の更新を要求します、而してそれは現在に於て始められねばなりません、「子供」の中に未來の穀種は潜んで居ります」フレーベルは斯くの如く當時の運動に關して自分の意見を現しました、彼は常に過去の事實（傳習の事實）は尊敬さるべきであるといふこと及び新しき創造はたゞ古きものゝ中よりのみ生ずるといふことを主張しました。

「次いで來るものは常に前に行くものゝ上に條件

づけられます」と彼はよく繰返しました、「私はその事を私の教育課程によつて子供に明かにしてやります（彼の玩具の第二の恩物はこの事を具象物に指示して居ります）、しかしフレーベルは急進黨にも與せず又すべての進歩を防遏する反動黨にも與せず明晰な理解力を以て當時の運動の上に彼の眼を注いで居りました、彼は革命黨の領袖によつて自黨に屬するものと思はれてゐました、而して彼はこの幼稚園を以て非難されました。

彼は幾度も幾度も繰返して言ひました

「國民の運命は權力の所有者や概ね自分自身をも理解してゐない革新者よりも、寧ろ婦人——母——の手に握られてゐます、私達は人類の教育者たる婦人を教化しなければなりません、さもなくば第二の國民はその使命を完遂することが出來ません」これが大抵いつも彼の説の總和であつたのであります。

フレーベルの師範教授

フレーベルと懇意になつたこの最初の日に於て既に私が彼の導いてゐる學生の授業に出来るだけ多く出席するといふ約束がなされました。

彼が彼の意見を發表し説明する際に現した熱情は彼の意見に特殊な極印を與へました、而して彼が彼の意見の正當なることを明示する際に明した深き確信は時に溢るばかりに裕かで莊嚴でありました。彼は天才が彼に起つて來た時は全然別人となつてしまひます、その時彼の言葉の流れは豪雨の如く注ぎ出されます、彼の天才は屢々全く思ひもかけずに又一寸した機會に起つて來るのであります、例へば散歩をしてゐる時なぞでも小石や植物の靜觀が屢々深遠な宇宙に關する思念に變じてゆくのであります、何は兎^うまれ彼のすべての議論の基礎は常に彼の進展論でありました——人類に應用された宇宙的進展の法則でありました。

彼の天才を確め、彼を刺戟する強き確信の力を認めやうとして教室に於けるフレーベルを見たい

と望む人もありました、真理の確乎たる確信のみが議論の具に供することの出来る深き熱誠を以て彼の熱誠を聴講者に傳ふべき主題に對する愛を以て並びに倦怠することなき態度を以て教鞭を執る彼を若き處女達の間に見た人は誰も皆等しく深い印銘を與へられない譯にはゆきませんでした。

彼の學生の大部分は彼の言語を十分に了解することが出来なかつたかも知れませんが、何故ならば彼の教へてゐたことは時に學生等の慣らされた思想の領域を超越して居りましたし又彼の一種趣を異にした話調が學生等に彼の言ふことを理解することを困難ならしめたからであります。けれども彼の教授せんとすることの精神は學生の心に浸徹しました。而して彼が授業をついでてゆく内にその部分的の理解が拓けてゆきました。

これは心から理解することの出来たもののみがさうだつたのであります、而して斯る人々には又彼の教授の主題に對する愛が眞個に目覺めて來ま

した、而かも尙彼の學生の内には後年活動する時に當つて幼稚園の實際的事務の他何事をもなし得ず又屢々眞の知識に非ざる臆説の他何物をも弘布し得なかつた者のあることは否まれません。

けれども論理的結合に於ける實際的の仕事と遊戲、智的意義を有する實際的の仕事と遊戲の習得は是等の若き處女の誰にでも彼の説の局限された了解を與へました、彼の説の全體は天賦の裕かな最も發達した者のみがその真相を解することが出来るのであります。

彼の屢々現す不明瞭な文體の理解は隨伴する例證によつて容易にせられます、彼が人性の溢るゝばかりの愛を以て、無理無體に亂暴に取扱はれ、すべての危害に曝さるゝ子供のたよりなさを語り且又神が彼等を婦人に托して眞の人たると同時に神の子たるべく形造らせ、彼等が生れ出て來た所のものに自覺的に立戻らせやうとするといふことを語る時には彼の學生の眼には涙が光りました。

而してそれから彼は人類の教育者としての婦人の上に課せられた責任を力説しました——責任は現代に於ては一層重くされました、その問題は男子のみでは到底解き能はぬ位に大きく且つ六ヶ敷くあります。

「生硬なものは成熟せるものとならなければなりません、生硬なものはこれまで十分の意味に於て人としての尊嚴を認められなかつた所の婦人並びに子供であります」と斯う彼は新しい婦人問題に就て話す度に言ふのが常でありました。

彼が恩物によつて彼の法則の應用を語る時並びに又彼が後年その精神的事實を了解せしむべき具象物、言はゞシンボルによつて與へらるゝ所の極く幼い子供に映する外的世界の第一印象を取扱ふ時は彼の眞意を解するに最も困難であります。

彼の學生の最も進歩した者でも彼の教授のこの眞に至難な不分明な部分を完全に再現することは出来ませんでした、私はこれを彼の與ふる授業の

内容を書き止めて置く學生の筆記帳を見て感じたのであります、それですから私はこの時から斯ることを教授するに當つては彼が施して來たと全く異つた方法を取ることにしました。

けれども彼が是等の筆記帳に於て彼が教へてゐる主題の深い洞察力と悟性とが現れてゐる數行を此處彼處に見出して私に指示する時には彼の眼は喜びを以て輝きました。尙又彼が個人的に私に説明してくれたことを私が更に立ち入つて發展させ説明する時及び私が彼から受けたものに就て異説を樹てる時などは彼の喜悅は甚しくありました。

彼が彼の玩具の意義を説明してゐる時私がそれを前から知つてゐたのなぞすると彼はよく「どうしてあなたはそれを知つてゐますか」と私に尋ねるのでありました、「私はまだそれに就てお話しませんでした、私は私の幼時の智的要求の記憶からそれを推理することが出来るのです」と私が言ひますと彼は大層喜びました、而して言ひました

「成程、それであなたにはその事が分るのでですね」この言葉を彼は、私がその頃彼の教授を次ぎに示すやうな金言的な記述によつて極く短く書き記して置いたものを彼に見せたときにも繰り返しました。

「極く初期の兒童生活の開展に於ける第一の系統は必要によつて繋がれたる無意識の自然なり」
「この人生の初期に於ける少年時代はたゞ感覺的世界の外的現象の中に於て、諸型の機關を豫象する所の前進的な自然の生硬なる諸型よりその原物（アンチタイプ）に對する本體）を見出し得るなり。基礎となるべきものはたゞ基礎となるべきものの中に於てのみそれ自身を見出す」

「是等の形象は一面精神的なるもの、シンボルたるすべての自然に係りある心靈の幼芽を目覺めしむ、兒童の靜平なる思考力なき心はシンボル若しくは高き心的形象によつてのみ覺醒を促され教へ導かるゝなり、自然の諸現象は是等のシ

ンボルを供すれども兒童の心の靜平にして定かならざる單純性に相當すべき初等の形に於てにはあらず、是等のシンボルは先づ思考力を有する心によつて多種多様な事物の中より選び出されざるべからず、是等のシンボルは至小なるものにも至大なるものにも花にも天體にも己が形を與ふなる宇宙の法則を反照せざるべからず」

「世界の構造の基礎に横れる最も簡單なる諸形（型）は又神の心を現せる世界の理解のために兒童の心に基礎を置くなり、是等の簡單にして定かならざる諸形は結晶の基礎形なり」（フレーベルの第二恩物の固體）

「すべての機關及びすべての自然現象の模範は極りなき形の變化を有するにも拘らず而かもそれに特殊なる事物の普遍的特性なり、而して大さと重さ、調子と數とに關聯せる形と色を以てそれ自身を現すこの宇宙は、基礎的の形、基礎的

の色、基礎的の調子——所謂觀念の主型——として兒童の眼を通して兒童の心に最も初等の様式に於て印さるゝなり」

「定まれる明白なる強く現されたる概念は因つて起る進展の範圍に於て斯くの如く論理的に配列されたる觀念に従ふ。外的、物質的な事物の誤らざる了解は智的關係に於ける公正なる了解の端緒なり」

「その知識のみがその活動と努力によつて外的物象の知覺と沈思より事物の中に逗住する思想及び概念に達する所の心の熟成を助長す、知識の梯子を漸次に昇ることによりてのみ兒童の心はその暗所より出で、自覺の明所に至る、兒童の内的存在を客觀的ならしむる所の原物アンチタイプより他何物よりもこの自覺は明確に得らるゝ能はず、故に事物のエー、ビー、シーは言語のエー、ビー、シーに先立たざるべからず、而してその眞の基礎を言語（抽象）に與へざるべからず」

「獨立的に思考し、生得の尊き思想を巧みに現す人の尠きは現代に於て是等の基礎が屢々缺乏するが故なり、進展の內的階段と力の程度とに相當せずに兒童の心に加へられたる教育は兒童よりその事物に對する獨創的の見解を奪ひ且又己が上にその個性を極印すべき大なる力と才とを奪ふ、斯くて自然の眞より遠ざかりて戲畫に赴くなり」

フレーベルの判斷は斯く難解不明でありましたし又彼の獨得の話振りによる「觀念」は甚しく紛ら^{まぎ}はしくありましたので、誰も彼の直覺の方法に深く立入つてゆかないかぎりはその特殊の意義を探し出すことは出来ませんでした。電光の一閃はよく暗路を照らし出すことがあります、而して彼が特に靈感によつて授けられた眞理は又丁度電光の如に直覺的に彼の聽講者の胸に運ばれました。

彼は屢々マイニンゲンとワイマールの公子達と交際しました、この公子達には私が彼と彼の説と

を紹介したのであります、而して私は屢々彼を訪れる時にこの公子達を連れてゆきました。

彼は眞に謙遜でありました、けれども彼が人としての尊嚴と説を持する人としての自己の價値とを感じてゐたといふことは彼の性格に於ける目立つた特性でありました。けれども彼は勿論彼の所謂神意を十分に認めてゐると思ひ込んでゐる所からそれを喜ぶのあまり、彼がその説を己一個の特有とは思つてゐないでたゞ神寵厚きその説の所有者の一人であると思つてゐることを知らぬ人々には彼は疑ひもなく傲岸であり尊大であるやうに見えた筈であります。けれども彼は決して凡庸者の持つやうな倨傲を持つてゐたのではありません。

それですから私がリーベンスタインの溫泉に來た人々を彼の所へ連れて行きますと、頭髮を分けて流行外れの長外套を着て子供らしい單純な舉動をする村夫子そのまゝの彼はその外貌の凡庸であるがために侮蔑の眼を以て見られたり、つまらな

い者の如に思はれたりするのでした、而して私はその度毎に腹を立てたのであります。けれども彼は彼の説を輕んじ見縊るすべてのものに對しては一々注目しますが自分の身のまはりのことに關しては少しも氣に止めませんでした。

他の説に就て話をしてゐる時、煩瑣學者流なぞが彼の説を解することなくしてこれを誹謗したりすると彼は火の如になつて怒りました。

彼は自分で自分自身を理解する能力を持つてゐると信じてゐるのに何等の根據なき反對に出會ふと嘗つて私も目撃したことがあります。彼は自分の説の眞なることを擁護するために怒れる獅子の如くに呼號するのであります。

故黒田定治先生は我教育界の恩人なり嚮に高等師範を出てらるゝや會津中學の校長として其創始の業を完うせられ文部留學生として師範學科を英佛獨に修めて歸朝せらるゝに及んでは高等師範學校の敎諭となり敎授となり續いて主事を兼ね更に單級學校の創設者となり廳て女子高等師範の敎授に任せられ遂に豐島師範の校授長として終らる其間實に三十年終始一日の如く斯界に貢獻せし偉績と其寄與せし德化とは夙に世人の知悉する處にして決して之を湮滅すべからず況や其高潔にして溢るゝ如き仁愛と己を捨てて人に致したる誠意とは永く之を銘記すべく殊に其郷里の經營に盡されたる高誼と後進の誘掖に任せられたる恩情とは郷人の等しく感仰して措かざる所なるをや此れ後進門人相謀り朝野有志の援助を得て金を醸したる碑を建て其功を録し其德を誦はん」と期せし所以なり大方の諸彥生等の微衷を諒とし幸にこの舉を賛け給はんことを祈る

櫻若溪會
上越學生寄宿舍會
御園生金太郎
(振替貯金口座四九七番)
(振替貯金口座六五八九番)

大正三年十一月八日

●發起人

星 葉彦六
日 公太郎

竹内金太郎

安川愛

君島八郎

●實于安員

馬實上孝太員郎

贊成員

春田たか、林てふ

野仲三郎、岡田

高橋清

里所精一
矢澤米三
里、山內

野菊、江阪熊藏、

憲、佐藤球、佐方

四吉、泥谷良次郎

[illegible]

嘉 國 山 片 士 博 學 醫 長 會

兒 童 研 究

學 會 機 關

日 本 兒 童

主 幹 高 島 平 三 郎
醫學博士 富士川 游

社會の改善も、人類の向上も、文明の進歩も、國家の發展も、詮じつむれば、たゞ善良の兒童を得るにありと言ふことになる。兒童を愛する國は興り、兒童を顧みざる國は亡ぶ、これは千古萬古變ることなき箴言である。兒童の研究は、ひとり教育家や、醫家に一任して置くべきものではない、世の父兄自ら研究すべき筈のものである。兒童の研究は即ち我を愛し、家を愛し、國を愛し、人類を愛することになる、兒童のために最善を謀らざる家庭は、決して幸福を望むことは出來ぬ、我儕は何人も兒童の研究に興味を持たれんことを切に希望してやまないのである。

○會費半箇年分金九拾參錢 同一箇年分壹圓八拾錢 ○兒童研究は毎月一回一日發行 ○會員には無代頒布

東京市本郷區西片町十番地

日 本 兒 童 學 會

振替貯金東京二二九五番

兒 童 研 究 第 十 八 卷 第 十 號 目 次

評 論 三三

學校醫問題 ○教科書國定の制度に就て ○中等教育に於ける修身科 ○補助學校設立の急務

講 演 三六

育兒上寒心すべき一二の廣告紀事に就て
幼年裁判に就て
醫學士 竹内 薰兵述 三六
法學士 山崎 佐述 三六

叢 談 三七

如何にして子供を丈夫にならしむべきか
學齡兒童智力検査法ニ就テ
醫學博士 唐澤 光徳述 三七
小學校の優等生及び劣等生と其生れし
時父の年齢との關係
ドクトル 三田谷 啓述 三七

兒童ノ身體ニ關スル統計(承前)
文 部 省 三八

雜 報 三八

日本兒童學會第十回總會 ○兒童教養相談所の設立 ○廣島縣教育品展覽會 ○兵庫縣結核豫防會設立趣意 ○全國幼稚園關係者大會 ○地方土産及び移入 ○日本犯罪學會講演會 ○兒童博覽會 ○雜誌新教育 ○日本神經學會總會 ○ヘーガル追用紀念講演會 ○日本神經學會九州地方會 ○學校衛生講演會 ○日本小兒科學會福岡地方會 ○大阪兒童學會常會 ○新刊紹介 ○動靜 ○轉居 ○雜誌文籍 ○新入會員

兒 童 學 彙 報

學童鼻たらし及ビ口蓋扁桃腺肥大ノ精神能力(承前) 安西茂太郎述 三七
學校兒童の爲めの園藝
ホルリングウォルス述 三八
家庭の化物譚
イー、シー、パーソンズ述 三八

フレーベル會規則 (抄)

第一條 本會ハ幼兒保育ノ改良發達ヲ圖ルヲ以テ目的トス
 第二條 本會ハフレーベル會ト稱シ東京ニ置ク
 第三條 會員タラントスルモノハ幼稚園ニ關係アルモノ又ハ幼兒保育ニ篤志ナルモノトス

第四條 會員ハ本會ノ經費トシテ一ヶ月金拾錢ヲ獻出スベシ

第五條 令聞名望アル人ニシテ本會ノ事業ニ裨益アリト認ムルモノハ特ニ請ヒテ客員トナスコトアルベシ

第六條 本會ノ目的ヲ達センガ爲ニ左ノ事業ヲ行フ

一、總會、毎年十月之ヲ開キ保育ニ開スル演說、談話、保育參考品幼兒成績物展覽、會務ノ報告等ヲナス

一、常會、毎年二月、六月、ノ第二土曜日之ヲ開キ保育ニ關スル演說、談話、協議、實驗等ヲナス

尙毎年四月廿一日特ニフレーベル紀念ノ爲メ會ヲ開ク

一、組合會、會員中特ニ或ル事項ヲ研究セントスルモノヲ以テ組織ス

但シ別ニ組合規約ヲ定メテ會長ノ承諾ヲ經ルモノトス

一、雜誌發行、毎月一回雜誌ヲ刊行シテ之ヲ會員ニ配布ス

一、前項ノ外本會ノ目的ニ裨益アリト認メタル事件

本會々長

中川謙二郎

本會幹事

(イロハ順)

井村くに 池田トヨ 芳賀晴

坂内ミツ 和田實
 武井綱枝 岡部やす
 安井哲 福田ふく
 雨森 鋼 坂井ふで
 和田くら
 倉橋惣三
 小向きみ

本會評議員 (イロハ順)

乙竹岩造氏 吉田熊次氏 田中ふさ氏
 野口幽香氏 槇山榮次氏 藤井利譽氏
 下田次郎氏 日田權一氏

本會客員 (イロハ順)

伊澤脩二氏 巖谷季雄氏 岩谷英太郎氏
 波多野貞之助氏 細川潤次郎氏 本間辰藏氏
 戸野周次郎氏 大瀬甚太郎氏 奧好義氏
 尾田信忠氏 大久保介壽氏 嘉納治五郎氏
 唐澤光徳氏 谷本富氏 高島平三郎氏
 棚橋源太郎氏 多田房之輔氏 田中敬一氏
 中島力造氏 中村五六氏 野尻精一氏
 野上俊夫氏 久留島武彦氏 松本亦太郎氏
 松本孝次郎氏 馬上孝太郎氏 富士川游氏
 小西信八氏 淺岡一氏 雀部顯宜氏
 櫻井光華氏 三島通良氏 篠田利英氏
 東基吉氏 瀬川昌耆氏 尺秀三郎氏
 菅原教造氏

幼稚園用品

家庭用玩具

東京九段

フーバー館

新築後工場も整頓致し店も精々片付申候間益々
業務に奮勵仕り物品を精選し格價を最も低廉に
需應に可申候に倍舊の御愛顧を願上候

日本玩具研究會 會員募集

會費は一ヶ月五拾錢にて研究した面白い御爲めになるよい玩具が毎月得られます(申込次第規則書送る)

本會評議員

巖谷 小波	甲賀 藤子	吉田 熊次
多田房之助	野口 ゆか	倉橋 惣三
久留島 武彦	山脇 春樹	町田 則文
小西 信八	三土 忠造	三輪田 元道
莊司市太郎	森村 開作	

本會幹事

稻垣 知剛	和田 實	河野 清丸
高市 次郎	曾根松太郎	武藤 忠義
野村 忠寛	松田 茂	藤 五代策
岸邊 福雄	御園生金太郎	
申込所 東京九段	日本玩具研究會	

明治三十四年二月廿八日第三種郵便物認可(毎月一回五日發行)

婦人子ども

第十五卷第一號

大正四年一月五日發行
大正三年十二月二十五日納本済

印刷所

凸版印刷株式會社本所分工場